

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月30日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 2870900145 | | |
| 法人名 | 株式会社アクティブライフ | | |
| 事業所名 | アクティブライフ夙川 | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市樋之池16-4 (電話) 0798 - 70 - 2700 | | |
| 評価機関名 | 株式会社H. R. コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年6月26日 | 評価確定日 | 平成19年8月29日 |

【情報提供票より】 (19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|----------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 11年8月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 | 15人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|----------------|--|--|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 3 階建ての 2~3 階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 347,950 円 | その他の経費(月額) | 24,150 円 |
| 敷金 | 有(円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 210 円 | 昼食 420 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 105 円 |
| | または1日当たり 1,260 円 | | |

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 3 名 | 女性 15 名 |
| 要介護1 | 5 | 要介護2 | 2 |
| 要介護3 | 3 | 要介護4 | 7 |
| 要介護5 | 1 | 要支援2 | 0 |
| 年齢 | 平均 86.6 歳 | 最低 69 歳 | 最高 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | 竹政クリニック(内科)・宮腰歯科(歯科) |
|---------|----------------------|

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の緑の自然に恵まれた施設は、「地域と共に」を基本理念として地域行事・地域活動に参加し活発な交流が行われている。また、行事だけでなく、地域の商店・近隣住民との交流があり地域社会に溶け込んでいる。職員は、入居者個々のシグナルを敏感に感じ取りプライバシーの保護に努めながら希望にあわせた外出などを行うように心がけている。家族からの意見、不満、苦情は法人全体でアンケート調査を年1回実施し、意見の集約・データー分析後、法人としてアンケート結果・改善点を家族へ報告している。また家族の意見・不満・苦情をケアに反映させるよう取り組んでいる。重度化・終末期まで、看取りに関して家族の意向を細かに汲み取り対応している。現在、法人としてターミナル期のマニュアルの見直し・作成に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前年度の評価の指摘事項を法人・全職員へ問いかけ改善へ向けて取り組んでいる。前年度は空気よどみの指摘があったが、脱衣所に換気扇を設置、個人の部屋の窓の開閉を許可があれば行っている。エレベーターのテンキーの指摘については常に職員・家族に問いかけを行い、話し合いを持ち改善へ向けて取り組みを継続している。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価については、すべてのスタッフが日々のケアを評価し、日常のケアの振り返りの機会と捉え自己評価作成に取り組んでいた。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 現在まで運営推進会議を4回実施している。メンバーの出席の調整を行い概ね2ヶ月に1回実施できている。運営推進会議だけでなく行事に招き、忌憚のない意見をもらっている。運営推進会議の意見を職員に報告し改善に取り組んでいる。現在、運営推進会議の中で医療連携について話し合いがもたれている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 家族の訪問時に入居者一人ひとりの日々の生活の状況を知らせる他、毎月の状況レターで、入居者の暮らしぶり・身体状況・金銭管理状況を報告している。法人全体でアンケート調査を年1回実施。データー分析を含め意見を集約し、ケアに反映させている。また、アンケート結果・改善点を家族へ法人として報告している。日々の生活の場に出てくる意見や要望は話し合い改善へ向けて取り組んでいる。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域住民のホームへの理解も深く、自治会にも入り、隣保付き合いが自然に出来ている。日常的に入居者と共に地域へ溶け込み頻りに交流の機会を持っている。宅配や切手の販売、バスチケットの販売などをホームで行い地域へ向けたサービスを通し年齢に関係なく交流が持てる取り組みを行っている。 |

2. 第三者評価結果票

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設当初よりの「地域と共に」の理念を基に地域活動・年末行事への参加・学校との交流等を行っている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者・職員は理念を具体的に理解し、実現に向けて話し合い、検討を重ねている。ミーティングで「職員一人ひとりがどのように理念を理解しているか」を確認する場を持ち具体化に向けた取り組みを実施し、具体的に実行している事を共有している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域住民のホームへの理解も深く、自治会にも入り、隣保付き合いが自然に出来ている。日常的に入居者と共に地域へ溶け込み頻りに交流の機会を持っている。宅配や切手の販売、バスチケットの販売などをホームで行い地域へ向けたサービスを通し年齢に関係なく交流が持てる取り組みを行っている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前年度の評価の指摘事項を法人・全職員へ問いかけ改善へ向けて取り組んでいる。今回の自己評価については、すべてのスタッフが日々のケアを評価し、普段のケアの振り返りと捉え自己評価作成に取り組んでいた。入居面接時に評価結果の説明をしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在まで運営推進会議を4回実施している。メンバーの出席の調整を行い概ね2ヶ月に1回実施できている。運営推進会議だけでなく行事に招き、忌憚のない意見をもらっている。運営推進会議の意見を職員に報告し改善に取り組んでいる。現在、運営推進会議の中で医療連携について話し合いがもたれている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 兵庫県の委託により教職課程研修の実習場所の提供を行いホームへの理解を深める取り組みを行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時に入居者一人ひとりの日々の生活の状況を知らせる他、毎月の状況レターで、入居者の暮らしぶり・身体状況・金銭管理状況を報告している。管理者の異動は家族会で報告し、職員の異動は各フロアの「朝の会」で本人から入居者に挨拶している。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|--|---|----------------------|-----------------------------------|
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 法人全体でアンケート調査を年1回実施。返信は本社へ返送されデータ分析を含め意見を集約し、家族の意見・不満・苦情をケアに反映させるよう取り組んでいる。また、アンケート結果・改善点を家族へ法人として報告している。日々の生活の場で出てくる意見や要望は話し合い改善へ向けて取り組んでいる。職員は日常的に些細な苦情も記録として残している。年2回の家族会や毎月の行事の参加、家族との個人面談も機会を利用して家族の意見を聞きサービスの改善に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット共常勤スタッフが多く、馴染みの関係を大切にして、できるだけ異動がないように配慮している。異動の場合も早い時期からスタッフの引継ぎ・研修を実施している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 本社介護研修センターで新人・経験年数に応じて計画的に研修を受講できるようになっている。新入職員に関しては、現場より研修センターへ習得度を報告し、サポート体制を整えている。事例提出も年1回本社で行いスタッフに発表の機会を持ってもらいスキルアップに努めている。今年度よりホームで、スタッフの心のケア研修を実施している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同法人の合同会議に定期的に参加をし他のグループホームとの交流を持つ他、キャラバンメイトへの参加で同業者との交流もある。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前の見学・デイ体験後入所に至るようにしている。施設・病院からの直接の入居ではなく、在宅でデイを利用してもらい、家族にも本人の意思を尊重していただくように伝え、時間をかけ入居してもらっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | 「朝の会」でご利用者が個人的に購読している新聞のニュースを紹介してもらい、過去の経験などを聞き、職員が入居者から教わる機会となっている。朝の会で利用者同士の仲間意識も持つことができ、一緒に過ごし支えあう関係作りが出来ている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望・要望の表出が難しくなっている方の意向の把握には、職員は一人ひとりのシグナルを敏感に感じ取るように心がけ、また家族との話を頻回に聞くことで本人・家族の意向を把握できるように取り組んでいる。 | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族との話しあいで介護サービス計画を作成し、家族と再度担当者会議を実施し計画立案している。より深く家族の意見・意向を聴取する為個人面談の取り組みがある。毎月のミーティングで職員間の意見交換を実施している。初期計画は約2ヶ月で作成している。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 落ち着いてる方は、3ヶ月に1回定期的な見直しを実施しているが入居者の状況変化に応じて随時の見直しを行っている。記録類はコンピュータシステムを導入し個別入力により情報の共有が可能となっている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療との連携により訪問看護も取り入れ身体面への医療管理がなされている。他病院の受診に際しては、ご家族と共に支援している。 | | |
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | それぞれの入居者の意向を尊重し在宅時の顔なじみのかかりつけ医による受診・往診を支援している。嘱託医には、月2回受診支援を行っている。薬は、受診時処方薬を持ち帰りホームで本人が飲みやすいように分包し服薬支援を行っている。歯科は必要時往診してもらっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居者家族の希望により終末期まで医療との連携がとれる場合には看取りをしている。家族と何度となく話し合いを重ね家族の意向を細かに汲み取り対応している。現在法人としてターミナル期のマニュアルの見直し・作成に取り組んでいる。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない | 本社での研修を重ねて受講し徹底を図っている。ミーティングの中でも折りに触れプライバシーについて話し合い、より深い徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の今までの生活歴や習慣を尊重し、利用者一人ひとりの思いを尊重しながら個々のペースに沿って過せるように支援している。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は外部委託で調理し、ご飯のみフロアで炊いている。食器洗いは、入居者が自発的に実施している。治療食でカロリー制限がある方に対しても主食の量を減らすだけでなく、調理方法を変更するなど見た目に代わりがないように配慮している。誕生日にはメニューの選択も出来るようになっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には 夜間浴、夕食後に入浴しているが、本人の体調や希望により昼間や午前中の入浴を実施している。ゆず風呂や 菖蒲湯など季節感を大切にしている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除や洗濯を本人の希望や力量に沿って実施してもらうこともある。散歩・買物・カタログを見ての買物など自発的に行われている。個々のペースを活かし、日々の生活の中で本人が興味を示される楽しみ事の場面作りを行っている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 一人ひとりの希望・要望にあわせて外出支援を実施している。職員のシフト上困難な状況のもあるが、概ね個々の外出する時間帯を把握し1日1回は外出できるように配慮している。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | エレベーターはテンキー操作になっており、入居者が自由に移動できないが入居者一人ひとりの希望や要望を受け止め、職員が付き添ってエレベーターの移動をすると共に散歩も可能な限り利用者の希望に添うようにしている。エレベーターのテンキーについては家族の了解を得ている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の定期的な訓練に加え夜間想定して非難訓練を行なっている。地域の自治会の協力体制が出来ている。緊急時に徒歩で駆けつける連絡網の確認と非常時の飲み水と非常食を準備している。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリー・栄養バランスは委託業者の栄養士が管理しており、定期的な会議も持っている。日々の食事摂取量や水分摂取量を把握し入居者の身体状況を把握している。入居者の潜在疾患・身体状況に合わせて調理への配慮を行っている。水分摂取への工夫もなされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関はオープンになっており外来者が訪れ易い雰囲気である。共有空間は落ち着いた色調の壁面に絵画を飾り、季節の花が置かれている。すっきりとした空間の各所に椅子が設置され思い思いに、穏かに過ごせるように配慮されている。室内は自然光が差し込み、窓の開閉による換気が行き届き、気になる臭いも感じられない。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室入り口の表札で部屋がわかるようにしてあり、居室内は入居者の馴染みの品が配置され、落ち着いて過せる個性豊かな居室作りが出来てる。 | | |

※ は、重点項目。